

# 第2次京丹後市新経済戦略について

～ 委員の皆様のご意見から戦略・プロジェクト例の設定まで ～

## 本日のご説明の流れ

---

- |   |                  |       |
|---|------------------|-------|
| ① | これまでの意見整理        | P2    |
| ② | 4つの視点            | P3    |
| ③ | キーワードと将来像・基本理念   | P4    |
| ④ | 戦略の構成            | P5    |
| ⑤ | 戦略の概要            | P6    |
| ⑥ | 戦略に基づくプロジェクトの方向性 | P7～P8 |
| ⑦ | 戦略・プロジェクト設定までの流れ | P9    |

## ① 委員の皆様からのご意見・課題感の整理(第1回/第2回)

課題領域	委員からのご意見や課題感(一部抜粋・要約)	
① 産業の高付加価値化・市場開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械金属業の「受注依存型」から「自社製品開発型」への転換</li> <li>・繊維・生糸・伝統産業の高付加価値化と販路拡大</li> <li>・観光や織物といった中核産業の高付加価値化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術・新分野への挑戦が必要(宇宙産業など)</li> <li>・サーキュラーエコノミーの地域ブランド化</li> </ul>
② デジタル活用・産業DXの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生成AIなどの技術活用に対する格差の拡大が懸念</li> <li>・AI活用により時間的余裕のある人材の一次産業参画</li> <li>・小売業・製造業のDX化による生産性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報手段として新聞やチラシの効果の低下。</li> </ul>
③ 産業インフラの強化と産業集積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致と工業団地の整備を進めることが重要</li> <li>・繊維業・機械金属業の産業集積を活かした新分野進出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップ支援が重要</li> </ul>
④ 産業人材の確保・育成/創業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層の都市部流出が深刻な課題</li> <li>・高度技術者(製品開発・設計・デジタル人材)の確保が困難</li> <li>・女性の高度人材が活躍できる環境整備(起業・就業支援)</li> <li>・人材需給のミスマッチ・働きやすさなど職場の環境整備が重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Uターン後の起業支援・事業承継の促進</li> <li>・産学連携によるリスクリング支援と高度人材の育成</li> <li>・ローカルベンチャー創出と創業後の成長支援</li> <li>・短時間労働などの柔軟な働き方の推進</li> </ul>
⑤ 小規模事業者の経営力強化と事業承継	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模事業者が多く、経営基盤の強化が求められる</li> <li>・事業、技術承継や企業集約化の推進</li> <li>・小規模事業者の共同広報、マーケティング支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街の空き店舗対策(古民家再生・テナント型活用)を進めるべき</li> <li>・ローカルベンチャーの地域内連携や事業者間の横のつながりづくり</li> <li>・農家の人で不足が進む中既存農家の規模拡大と雇用拡大支援が必要</li> </ul>
⑥ 観光・関係人口の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド観光の促進と大阪万博との連携強化</li> <li>・観光資源の戦略的な情報発信と横連携強化が重要</li> <li>・関係人口の創出(地域と都市部の交流促進)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光業×地場産業(食品・織物など)の連携強化を図るべき</li> <li>・「京丹後市に関わる人」の層をどう広げるかが重要</li> <li>・高速道路整備を契機に「関係人口」の拡大</li> </ul>
⑦ 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の品質は高く都市部での評価も良いが知名度が低い。</li> <li>・高速道路整備を契機とした外部との連携や企業誘致に向けた情報発信の強化</li> </ul>	

 委員の皆様のご共通認識

京丹後市の強みを活かしながら、課題を解決していく総合的な取り組みが必要

## ② ご意見・課題感から浮かび上がった4つの視点

委員からのご意見・課題感



4つの重要な視点が見えてきました

### A. 「ひと」の確保と育成



<対応する課題領域>

- ④ 産業人材の確保・育成／創業
- ⑥ 観光・関係人口の活用

### B. 「モノ」への支援と整備



<対応する課題領域>

- ③ 産業インフラの強化と産業集積
- ⑤ 小規模事業者の経営力強化と事業承継

### C. 「技術」の活用と革新



<対応する課題領域>

- ② デジタル活用・産業DXの推進
- ④ 産業人材の確保・育成／創業

### D. 「価値」の創造と発信



<対応する課題領域>

- ① 産業の高付加価値化・市場開拓
- ⑥ 観光・関係人口の活用（観光資源等の戦略的発信）
- ⑦ 情報発信



気づき

委員の皆様からのご意見は、総合的に「ひと×モノ×技術×価値」という4つの要素に関わっている

### ③ 会議の中の発言等からの重要なキーワード／時代と地域特性を組み合わせた将来像の構築



#### 『交流して循環させる』－循環型の経済活動－

##### <委員の発言から(一部抜粋・要約)>

- ・地域と都市部の交流促進を拡大する必要があるのでは
- ・地域内での購入を促し、地域内で価値が循環する仕組みが重要
- ・「京丹後市に関わる人」の層をどう広げるかが重要
- ・Uターン・Iターンで起業・事業承継する還流の促進が重要



#### 『交流して共創する』－互いを共感し支え合う共創－

##### <委員の発言から(一部抜粋・要約)>

- ・特にものづくり分野での協業や産学連携を活かした新技術の連携可能性を探ってはどうか
- ・地域資源を活用したローカルベンチャーの創出・成長支援が重要。協力型の広報強化が大切
- ・観光業×地場産業の連携強化が重要なポイント
- ・異業種連携による新商品開発や、新分野への進出が重要

#### 時代が求める視点

サーキュラーエコノミー、グリーントランスフォーメーション、SDGs、ウェルビーイング  
DX、ジェンダーギャップ解消など

#### 地域特性を活用する視点

1. 全国と比較して、人口に対する事業所数が多い－全国1.2を争う“経営者で”あふれるまち－
2. 女性の労働力比率が高い
3. 織物産業をはじめ、ものづくり精神(職人氣質)が育まれる環境が多くある
4. 製造業、宿泊・飲食業は高い競争力があり、地域経済のけん引役となっている
5. 山陰近畿自動車道の延伸が地域産業に飛躍的な成長の機会をもたらされている
6. 移住者が3年連続過去最高を記録するなど、地域経済活性化の機運が高まりつつある

#### 【将来像・基本理念】

## ひと・モノ・技術・価値が循環する「経営力あふれるまち」の実現

山陰近畿自動車道が延伸することで、多様な人々や企業の交流が活発化し、共創や連携が促進し、ビジネスチャンスが生まれる。それが、「ひと・モノ・技術・価値」といった要素の循環に繋がり、地域内で価値が創造される。これらが繰り返されることで、経営力が溢れ、持続的な経済成長が実現する。

#### ⚡ 基本理念のポイント

**交流**を活発化させ、「**循環**」と「**共創**」を促し、持続的な経済成長を本市の特性を活かし実現する

## ④ 将来像・基本理念を実現するための戦略構成／主な数値目標(令和10年度) - どうやって基本理念を実現させるのか -



### < 条例の基本方針に沿った戦略 >

#### 【基本戦略】

- ・企業の経営安定と再生
- ・企業の成長支援
- ・新規創業と新産業の創出
- ・企業誘致の推進

### < 委員意見や会議内容から設定した戦略 >

#### 【共創循環戦略】

- ・多様な人材交流による共創と循環
- ・環境調和型産業育成と資源循環
- ・技術融合に伴う人材育成と域内循環

### 【主な数値目標(令和10年度)】

※他にも「工業製造品出荷額等」、「商業年間商品販売額」を設定  
 ※目標値については、当市第3次総合計画(基本計画)記載の目標値を参考に設定



## ⑤ I 基本戦略

戦略	主な取組み	関連する主な課題領域
I.1 企業の経営安定と再生	経営基盤強化、事業承継や再構築等を図る	④ 産業人材の確保・育成／創業 ⑤ 小規模事業者の経営力強化と事業承継 など
I.2 企業の成長支援	多様で強靱な産業構造への転換推進、成長産業の創出	① 産業の高付加価値化・市場開拓 ② デジタル活用・産業DXの推進 など
I.3 新規創業と新産業の創出	多様な人材のチャレンジ環境を整備、スタートアップ支援	④ 産業人材の確保・育成／創業 ⑥ 観光・関係人口の活用 など
I.4 企業誘致の推進	立地優位性を活かす戦略的企業誘致と経済交流圏創造	③ 産業インフラの強化と産業集積 ⑦ 情報発信 など

## ⑤ II 共創循環戦略

戦略	主な取組み	関連するキーワード
II.1 多様な人材交流による共創と循環	多様な人材の交流・共創・循環による新たな経済の泉の創出	【産業観光・交流・関係人口促進】【都市部企業×域内企業】
II.2 環境調和型産業育成と資源循環	サーキュラーエコノミーの実践を通じて循環型ビジネスの創出、資源循環による新たな付加価値創出を支援	【環境循環型経済社会】【持続可能性】【循環】
II.3 技術融合に伴う人材育成と域内循環	先端技術の融合による産業人材の育成、山陰近畿自動車道延伸効果を活用した域内外取引拡大と経済交流圏の創造	【(デジタル)人材の育成・確保】【DX活用】【地域内経済循環】



### 産業観光で多様な人材・企業と交流

「多層的人材・企業の共創・循環から新ビジネスが生まれる機会を創出」



### 地域資源循環モデル

「環境資源や廃棄物等をエネルギーに変える循環型経済社会の実践」



### 既存技術×デジタル融合

「域内外企業間の共創で新たな新市場開拓や域内取引拡大による循環促進」

## ⑥ I 基本戦略: プロジェクトの方向性

<各要素(視点)について>

- ・ひと: 人材確保・育成、多様な人材活躍、交流促進など
- ・モノ: 資源活用、インフラ整備、資金、物的基盤など
- ・技術: デジタル化、技術革新・融合、技術活用など
- ・価値: 付加価値創出、ブランド化、情報発信など

<重要要素関連指標>

- ◎重要な要素(視点)が関わる度合
- ・★★★★(高関連) 中核的な役割
  - ・★★★(中関連) 重要な役割
  - ・★(低関連) 補助的な役割

### I.1 企業の経営安定と再生

#### ✓ 地域企業・ベンチャー経営交流促進

－既存企業とローカルベンチャーの交流による経営基盤強化と成長支援－

域内外企業とローカルベンチャーの経営ノウハウ共有や共創機会の促進等といった企業間交流を通じた経営力の強化・安定化とローカルイノベーションによる成長支援を実現する。

<重要要素関連指標>

- 【ひと】: ★★★★★
- 【モノ】: ★★★★★
- 【技術】: ★★★★★
- 【価値】: ★★★★★

### I.2 企業の成長支援

### I.3 新規創業と新産業の創出

#### ✓ 若者チャレンジ・多層人材定着インキュベーション

－若者・女性・UIターン者、移住者等の多層人材のチャレンジ環境整備－

若者・女性・UIターン者・移住者等の多層人材の域内外交流を促進させ、創業・新事業への挑戦環境を構築する。創業準備から事業化まで段階的支援により新規事業・産業創出を図り、地域経済の持続的成長に繋げる。

<重要要素関連指標>

- 【ひと】: ★★★★★
- 【モノ】: ★★★★★
- 【技術】: ★★★★★
- 【価値】: ★★★★★

### I.4 企業誘致の促進

－基本戦略の役割－

<安定化重視>  
既存事業の継続・強化

<段階的成長>  
段階を踏んだ着実な発展

<基盤整備>  
インフラ・制度・人材の土台づくり

## ⑥Ⅱ 共創循環戦略: プロジェクトの方向性

<各要素(視点)について>

- ・ひと:人材確保・育成、多様な人材活躍、交流促進など
- ・モノ:資源活用、インフラ整備、資金、物的基盤など
- ・技術:デジタル化、技術革新・融合、技術活用など
- ・価値:付加価値創出、ブランド化、情報発信など

<重要要素関連指標>

- ◎重要な要素(視点)が関わる度合
- ・★★★★(高関連) 中核的な役割
  - ・★★★(中関連) 重要な役割
  - ・★(低関連) 補助的な役割

### Ⅱ.1 多様な人材交流/経済の泉創出

-多様な人材の交流・共創・循環による新たな経済の泉を創出-

### Ⅱ.2 環境調和型産業育成

-サーキュラーエコノミー実践による循環型ビジネス創出-

### Ⅱ.3 技術融合と経済循環

-先端技術融合による人材育成と域内外取引拡大-

✓ **産業観光・オープンファクトリー** -製造現場見学ツアーと職人技術体験による交流創出-  
地域の域内企業が自社の工場等を開放して、都市部からの観光客(外国人観光客含む)や地域住民が職人技術を直接体験できる交流機会を創出する。製造現場見学ツアーと職人との対話を通じて、ものづくり技術の魅力発信と観光誘客を同時に実現し、循環させることで、地域産業の認知度及び価値向上を図る。

<重要要素関連指標>

- 【ひと】: ★★★★★
- 【モノ】: ★★★★★
- 【技術】: ★★★★★
- 【価値】: ★★★★★

✓ **サーキュラーエコノミー産業創出** -循環型ビジネスモデルの事業化支援-

産業・自然環境・食分野等の企業間マッチングを創出し、資源の効率的・循環的利用と付加価値最大化を図る共創事業を推進する。製品・素材・資源の価値を長期保全し廃棄物発生を最小化する循環型ビジネスモデルの事業化支援により、持続可能な新産業創出を実現する。

<重要要素関連指標>

- 【ひと】: ★★★★★
- 【モノ】: ★★★★★
- 【技術】: ★★★★★
- 【価値】: ★★★★★

✓ **長寿食ブランド・ワールドワイド販路開拓**

-長寿食・健康長寿をテーマとした地域産品の新たな販路の開拓-

産官学医連携や海外企業とのパートナー連携・交流によって、長寿の要因とされる京丹後の食文化や自然を活用した健康長寿食品のブランド化を推進。京丹後食とのコラボレーション商品開発と国際市場開拓により、健康で幸福な長寿社会の実現と地域社会の活性化を図る。

<重要要素関連指標>

- 【ひと】: ★★★★★
- 【モノ】: ★★★★★
- 【技術】: ★★★★★
- 【価値】: ★★★★★

-共創循環戦略の役割-

<革新性重視>  
新しい価値・市場の創造

<循環型成長>  
持続可能なビジネスモデル

<共創促進>  
多様な主体との連携

## ⑦ 戦略・プロジェクト設定までの流れ

① 京丹後市の統計データや特徴、旧計画の振り返りなどを基にした委員からのご意見・課題感 (推進会議:第1回/第2回)



② 4つの視点

「ひと」の確保と育成

「モノ」への支援と整備

「技術」の活用と革新

「価値」の創造と発信



③④ 「時代が求める視点」と「地域特性を活用する視点」を加え、『将来像・基本理念』を設定

ひと・モノ・技術・価値が循環する「経営力あふれるまち」の実現

—山陰近畿自動車道延伸×DX化による交流促進・共創連携と循環型価値創造による持続的経済成長モデル—



⑤ 実現するための戦略設定

### I.基本戦略

### II.共創循環戦略

⑥ I 基本戦略に基づくプロジェクトの方向性

⑥ II 共創循環戦略に基づくプロジェクトの方向性

- ✓ 地域企業・ベンチャー経営交流促進プロジェクト
- ✓ 若者チャレンジ・多層人材定着インキュベーションプロジェクト

など

- ✓ 産業観光・オープンファクトリープロジェクト
- ✓ サーキュラーエコノミー産業創出プロジェクト
- ✓ 長寿食ブランド・ワールドワイド販路開拓プロジェクト

など

—循環の仕組み— 

- ・ひと:多様な人材が行き交い・知識・経験を共有
- ・モノ:地域資源が効率的に活用され、新たな価値を創造

- ・技術:既存技術と先端技術が融合しイノベーションを創出
- ・価値:地域内外で価値が循環し、持続的な成長を実現

—共創のネットワーク— 

- ・地域企業×市民(団体)×域外企業
- ・多層的なパートナーシップで新しい経済の泉を創出